

メンタルヘルスに特化した産前・産後ケアハウス

提案の概要

愛称:ダンボハウス

所在地:未定

趣旨:公的補助を受けて産後ケア事業は拡大しつつある。しかし、産後の「疲労回復」のための休息所として短日間のみ利用されることがほとんどである。産後の母親の約10%は治療の必要な心理状態にあることが知られている。ここには、新生児ボンディング障害、産後うつ病、急性ストレス障害、睡眠障害、強迫症などが含まれる。加えて、妊娠期の心理的不調には重度の希死念慮や出産恐怖を伴う場合があり、集中的な宿泊型のケアが必要な状況であっても、対応が可能な施設は限られている。産後の心理的不調も産前のそれも薬物療法の対象ではなく、十分に時間をかけた本格的かつ集中的心理療法が必要である。しかし、現在広がっている産後ケアハウスは医療の観点が多くなり、こうした心理的問題を抱えた妊婦や母親(とその家族)への支援ができていない。例えばケアハウス利用にあたっては、精神疾患の既往があるだけで利用を断られる。利用中の者に心理的不調が見つかった場合は外部の医療機関に紹介されるだけである。一方、現行の健康保険でカバーできる精神科診療所の治療は、初診の待ち日数が長く、面接時間も短く、治療方策も薬物療法が大部分であり、母子関係に焦点をあてた心理療法は行われていない。本プロジェクトは、こうした心理的問題を抱えた妊婦・母親を、その児と配偶者ととともに、心理療法を中心に比較的短時日での回復を目指す、メンタルヘルスに特化した、人数を限定した産前・産後ケアハウスである。本ケアハウスは、こころの診療科きたむら医院からの周産期精神医学の専門医による往診や受診が容易に行え、また必要に応じて、ケアハウス終了後も提携クリニックでの加療が可能である。内装は家庭的で、配偶者や他の子どもも同時に利用(宿泊)可能である。

スタッフ:

所長 1名〈北村俊則:精神科医、英国精神医学会専門医〉

助産師 4名〈周産期メンタルヘルスプロフェッショナル資格を保有の者〉

看護ローテーション:日勤2名+夜勤1名

チェックイン： 9:00～10:00（午前中にインテーク面接）

チェックアウト： 12:00

部屋と費用：4室

家族（配偶者や上の子ども）の宿泊もできる

メンタルヘルスケア内容：

入所時点あるいは事前に**母児次元評価面接妊娠初期用・産後用**（約70分）による評価を担当助産師が行う。その結果について所長を含めたカンファレンスで検討し、心理療法の方策を決定する。方策には以下の手法が含まれる。

助産師スタッフのうち1名をプライマリセラピストとし、**週に3～4セッション**（1セッション＝60分）を行う。セッション内容は**所長のスーパービジョン**を受ける。心理療法の内容は以下を含める。

心理教育

対人関係療法

感情焦点療法

解決志向短期療法

親子療法を含む短期力動精神療法

転移感情焦点療法

育児指導を含む行動療法

カップルセラピ

所長の治療が必要な場合は別途、こころの診療科きたむら醫院（有料）を受診（担当助産師付き添い）

提案者のプロフィール：北村 俊則（きたむら としのり）

慶応義塾大学医学部卒業 慶応義塾大学病院（精神神経科）、東京武蔵野病院、英国バーミンガム市オールセイントズ病院、国立精神・神経センター精神保健研究所を経て、熊本大学大学院生命科学研究部教授（臨床行動科学分野・こころの診療科）教授

ワシントン大学医学部(米国セント・ルイス)客員教授, いくつかの国際専門誌の編集委員 英国精神医学会会員(日本人初)およびフェロウ 周産期精神医学の論文・著作多数

《現職》北村メンタルヘルス研究所所長、こころの診療科きたむら醫院院長、北村メンタルヘルス学術振興財団代表理事

h 指標 = 48 (ResearchGate 4 April 2024) 被引用回数 10,030 (ResearchGate 4 April 2024)